



松原 真●

とある先生が「よく噛める」と「おいしく食べられる」は違うよ、と話されていました。

ピーナッツが小さくなるにはよく噛めれば良いだけですが、患者さんが欲しているのは、五感に訴える“おいしく楽しく食べられる”ということです。この本には多数の歯科医師が関わっていますが、全篇を通して共通するのは総義歯が大好きだということと患者さんに対する想いの深さです。読者自身がつい義歯を作りたくなる本です。

熟読をお勧めしたいのが編集委員座談会のコーナーです。本書は各執筆者の個性、違いを引き出そうとする戦略が施されていますが、ここでは編集委員自らがいろいろな考え方や手法を示し、総義歯臨床の多様なアプローチを示しています。

旧義歯に手をつけるかつかないか、治療用義歯とはなど、臨床の疑問に直球勝負してくれている設問もあります。

あえていうと、気を付けないといけない記載もあります。リマウントは最近あまりしなくなったとの記載などです。執筆者の作製義歯が口腔内で安定しているからチェアサイドで調整できるのであり、習得技術のレベルによっては「リマウント」は有効な手技だと思われます。また、無歯顎臨床を登山にたとえています。執筆者全員と読者が同じ山を想定できているのでしょうか。また、同じ山という設定でよいのか疑問です。しかしこれもまた義歯の面白さであり、多様性なのでしょう。科学、エビデンスになりづらいからこそ奥が深く興味深いのかもかもしれません。回り道をしながらでも一步一步頂上を目指したいものです。

DVDが付録のように付いていますが、これが宝箱です。義歯の講演会で積極的に動画を使用しはじめたのが村岡秀明先生ではないかと思いますが、村岡先生はじめ4名の先生方の日常臨床がそのまま映し出されています。

広い視野で目を凝らしてご覧いただくと多くの発見があります。



総義歯という山の登り方 DVDビデオ付
臨床のベスト・ルートを求めて
村岡秀明・渡辺宣孝・榎本一彦 編
A4判 210頁 定価13,650円(本体13,000円+税5%)
医歯薬出版株式会社刊

義歯はインプラントが確立されてきたいまなお、究極の補綴だと思います。また、患者さんと術者側が共同で携わる典型的な補綴方法です。直接患者さんとやり取りする楽しさ、喜び、時に苦しみを享受するうえで引き出しを増やす多くのきっかけを本書は与えてくれるのです。方法論の違いを山の違い、患者さんの許容量として容認するのではなく、画一的な共通項としてではなく、総義歯作りの初心者へのガイドを示すことが義歯好きのチェックポイントの整理になるのでしょうか。われわれが真摯に臨床で探求すべき事柄なのでしょう。

実験的な本です。この本が良書の新しい形であるとするば編集企画の作戦勝ちといえるでしょう。共通項、ガイドラインを探している振りをしてオンリーワン、いえ、ベストワンを探せといっているのかもしれませんが。ここでも臨床・患者さんに対する熱い想いが基礎になっていることは間違いありませんが。

(まつばらまこと 〒113-0021 東京都文京区本駒込3-1-9 松原歯科 Tel: 03-3821-2366)